



JICA だより



ガーナ
田川夏美さん(41)
広島市西区出身

私が派遣されたガーナは、さまざまな民族が暮らす多民族国家である。また過去には奴隷貿易の歴史もある。そのためか、私を知るガーナ人は争いを好まず、身近な人や平和を大切にしている。明るくピースフルな人が多い印象だ。困っている人がいたら、見知らぬ人でも当たり前のように助け合う。遠い日本から来た当初、私もその優しさにたくさん助けられた。

私は、祖父母が広島の原因爆被爆者である。私自身、被爆者から被爆体験を受け継ぎ証言する被爆体験伝承者を目指していることもあり、昨年、ガーナや他のア

平和学習 未来のために

フリカの国で平和学習授業を行った。在留の日本人やアフリカの子どもたちを対象に、原爆被害や戦争について知ってもらい、平和の

尊さについて考えてもらおう取り組みである。授業を聞いてもらった後、ある生徒から「私の学校にはロシア、ウクライナ、

なぜ争いは起こるのだろうか？ 自分と他者は違うし、それは変えようがないがゆえに、相手を攻撃したり、無視したり、さらには排除して傷付けるのだろうか。いや、お互いの気持ちや考えを尊重できるように

そこで日本とガーナ、それぞれを未来志向で語り合い、平和な世界を共につくる礎が生まれればと願う。世界中の人々の現在と未来が、ケープ・コーストの丘から見る海のようにきらきらとまぶしく光り輝くように。



近隣国ベナンの小学校で平和学習授業をする筆者（奥中央）

日本、米国という話し合い、折り合うことはいろんな国の人ができるはず。ガーナの人々も。でも国籍関係なく仲良くして受け入れてくれたように。世界中の全ての人々が自分らしさを尊重され、自由に生きていける日が来るのを待ち望んでいる。そのために自分は何ができるのかを常に考えて行動していく。本年度、奴隷貿易の遺構が残るガーナのケープ・コーストで平和学習授業を行うのもその一環である。